

平成28年度 教育部  
組織目標達成度測定シート

今年度の目標設定				今年度の目標の達成度と今後の取り組み		
A 組織の方針(使命)	B 重点目標項目	C 設定理由・考え方	D 活動(手段)	E 目標の達成評価	F 目標の達成度	G 今後の取り組み
組織の基本方針又は使命	今年度取り組む事項	どのようなニーズに基づくのか どのような成果を目指すのか	重点目標項目を実現するため行う活動や手段	目標の達成状況や成果の評価(できるだけ定量的に記入)	※目標の達成度の区分(「B重点目標項目」単位での評価)	目標が未達成であれば、今後の具体的な取り組み
京田辺市の教育は、活力とうるおいのある未来をつくるため、確かな見通しを持って主体的に生き抜く、創造性あふれる心豊かな人間の形成を目指すものである。 そのため、学校教育、社会教育、社会体育の密接な連携を進め、子ども達の豊富な社会体験を通して人間形成に努めるとともに、市民の生涯にわたる学習活動を推進し、地域に即した教育活動の活性化のために一層の努力を図る。	1.複合型公共施設における文化施設機能の検討	・京田辺市文化振興計画において掲げられている「文化ネットワークの中心となる新たな文化施設の整備」に向けて、必要な文化機能の調査・検討を行う。	・庁内検討委員会を開催する。	・複合型公共施設における、文化機能の調査研究について取りまとめを行った。	B	
	2.幼保一体サービスの提供に向けた施設整備の調査・研究	・幼稚園施設の老朽化や将来的な少子化の進展を見据え、福祉・教育の枠組を超えた対応が求められており、幼保一体サービス提供について調査・研究を行う。	・幼保の各々が持つ課題を知り、相互に理解・研修が行える機会を設定する。 ・幼保連携推進会議における調査、検討を行う。	・6月と11月に幼稚園教諭と保育士の合同研修会を実施した。 ・5月、1月、3月に幼保連携推進会議を開催した。 ・8月、市立幼稚園、市立保育所、児童館及び地域子育て支援センターの正規職員を対象に懇談会を実施した。 ・1月、幼稚園教諭、保育士、子育て支援課職員とともに兵庫県三木市の認定こども園の視察を実施した。	B	

平成28年度 教育部  
組織目標達成度測定シート

今年度の目標設定				今年度の目標の達成度と今後の取り組み		
A 組織の方針(使命)	B 重点目標項目	C 設定理由・考え方	D 活動(手段)	E 目標の達成評価	F 目標の達成度	G 今後の取り組み
組織の基本方針又は使命	今年度取り組む事項	どのようなニーズに基づくのか どのような成果を目指すのか	重点目標項目を実現するため行う活動や手段	目標の達成状況や成果の評価(できるだけ定量的に記入)	※目標の達成度の区分(「B重点目標項目」単位での評価)	目標が未達成であれば、今後の具体的な取り組み
	3.不登校対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出現率が依然高い不登校児童生徒の解消に向けた取組を進める。</li> <li>・未然防止に向け、早期発見、早期対応を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市適応指導教室(ポットラック)移転に伴う機能を充実させる。</li> <li>・学校スクールカウンセラーと臨床心理士の活用による教育相談を充実させる。</li> <li>・中学校ブロック小中連携会議を効果的に運用する。</li> <li>・キララサポーターの配置による学習・生活支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・28年度状況(30日以上欠席児童生徒数) 小学校21人(前年比-4人) 中学校84人(前年比±0人)</li> <li>・ポットラックの状況 入室者数17人(前年比+3人)卒業生3名とも進学</li> <li>・不登校児童生徒の詳細な把握に努め、臨床心理士の活用やポットラックとの連携のもと、学校復帰や放課後登校等に繋げることができた。</li> <li>・キララサポーターの配置により、個別対応を効果的に行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒数については、依然多い状況が続いており、早期対応と児童生徒、保護者に寄り添った支援により早期改善に努める。</li> <li>・ポットラックと学校との更なる連携強化を図ることや困難な事案を中心に、市の臨床心理士を積極的に活用する。</li> <li>・学校サポートチーム体制の構築と小中連携を更に進める。</li> </ul>
	4.子どもの貧困対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困状態にある子どもに対する教育の機会均等の実現を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談や問い合わせに、支援・援助制度の丁寧な対応と説明をし、教育を受ける環境の整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学援助支給認定者数 小学校 598人(14.0%) 中学校 354人(19.7%) (29.3月末時点)</li> <li>・保護者からの相談があれば、迅速に申請書の提出を促し、認定作業を行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、個々への声かけ・働きかけを行い、制度の周知を進める。</li> </ul>

平成28年度 教育部  
組織目標達成度測定シート

今年度の目標設定				今年度の目標の達成度と今後の取り組み		
A 組織の方針(使命)	B 重点目標項目	C 設定理由・考え方	D 活動(手段)	E 目標の達成評価	F 目標の達成度	G 今後の取り組み
組織の基本方針又は使命	今年度取り組む事項	どのようなニーズに基づくのか どのような成果を目指すのか	重点目標項目を実現するため行う活動や手段	目標の達成状況や成果の評価(できるだけ定量的に記入)	※目標の達成度の区分(「B重点目標項目」単位での評価)	目標が未達成であれば、今後の具体的な取り組み
	5.学校、幼稚園施設の維持管理	・市立幼稚園・小学校・中学校の建物について、将来的にも経済的な管理を計画的に実施するため、予防保全型の修繕による維持管理への転換や施設更新を計画的に行う。	・公共施設等総合管理計画を踏まえた学校施設長寿命化計画の策定に向けた取組を進める。	・平成32年度の学校施設長寿命化計画の策定に向けて、準備を進めた。	B	輝くこども未来室と連携し、幼稚園施設の耐震化を進めるとともに、平成32年度末に向けて、学校施設長寿命化計画の策定に向けた取り組みを進める。
	6.中学校昼食のあり方の検討	・デリバリー方式による注文弁当斡旋事業について再評価を行うとともに、生徒や保護者の現在のニーズを把握し、幅広く望ましい昼食のあり方を検討する。	・検討委員会を設置し、中学校昼食のあり方について検討を進める。	・京田辺市中学校昼食等検討委員会を設置し、より良い中学校昼食についての検討を行うとともに生徒及び保護者に対してアンケート調査を実施し、ニーズ等の把握に努めた。	A	
	7.留守家庭児童会開設時間見直し	・保護者ニーズに応えるため、留守家庭児童会の開設時間の検討を行う。	・開設時間延長に係る人員及び経費等の算出や、利用状況の把握を行い、変更に向けた準備を進める。	・他市事例の研究のため、他市町村の事務担当者会議を本市主導で開催した。(平成28年10月17日(月)開催、出席者総数:18名、9市町村) ・研究の結果、人員確保が大きな課題であることが判明したため、各大学や校舎長等関係機関に対し、人員確保の協力依頼等を行った。	B	・保護者ニーズの詳細について改めて把握したうえで、開設時間延長に向けて、人員確保のために各関係機関への協力依頼等を継続して行うとともに、開設状況の点検を行い、支援員の勤務体系や運営方法の見直しによって延長が可能であるかの研究を行う。

平成28年度 教育部  
組織目標達成度測定シート

今年度の目標設定				今年度の目標の達成度と今後の取り組み		
A 組織の方針(使命)	B 重点目標項目	C 設定理由・考え方	D 活動(手段)	E 目標の達成評価	F 目標の達成度	G 今後の取り組み
組織の基本方針又は使命	今年度取り組む事項	どのようなニーズに基づくのか どのような成果を目指すのか	重点目標項目を実現するため行う活動や手段	目標の達成状況や成果の評価(できるだけ定量的に記入)	※目標の達成度の区分(「B重点目標項目」単位での評価)	目標が未達成であれば、今後の具体的な取り組み
	8.施設使用料の見直し(学校体育館照明料)	・コストの負担の公平性や公正性を確保するため、公共サービスの提供に要した費用の負担を求め、受益者負担の適正化を図る。	・徴収方法等についての検討 ・関係例規の整備 ・広報等周知	・各小学校・中学校の使用状況、近隣市町の料金徴収状況について調査し、本市における使用料を想定し、徴収コストと比較検討した。	B	・施設使用料徴収の影響及び徴収方法、施設に必要な機器等について調査し、実施時期について再度検討する。